

【乳房炎治療はいつ始めるか？】

はじめに

皆さんは乳房炎の治療を始めるタイミングはいつでしょうか？搾乳中に乳房炎を発見した時でしょうか？オンファームカルチャーや弊社で行っている乳汁検査の結果が分かったときでしょうか？後者の場合は前者に比べて約24時間治療開始が遅れてしまうことになります。このことについて Wisconsin 州立大学の研究者が「原因菌培養による治療の遅れの影響」について調査した内容を紹介します。

乳房炎スコアリング

「原因菌培養による治療の遅れの影響」の前に、乳房炎のスコアリングについて紹介します。

乳房炎のスコアリングには、乳房炎の症状に対する定義がシンプルで理解が簡単、見た目で判断でき、容易に記録が取れる実践的である必要があります。Wisconsin 州立大学の研究者が推奨するスコアリング方法は、シンプルで乳房炎の発見精度を高める上で非常に役立つと考えられています。

スコア	状態
1(軽度)	異常乳汁(ブツ、水様性)のみ
2(中等度)	異常乳汁 乳房の異常(発赤、腫脹、硬結)
3(重度)	異常乳汁 乳房の異常(発赤、腫脹、硬結) 全身症状(発熱、食欲不振、ルーメン機能停止、泌乳量の著減)

表1 乳房炎のスコアリング

原因菌培養による治療の遅れの影響

8農場441頭の乳房炎スコア1と2の臨床型乳房炎を2群に分けた。試験群は原因菌培養を実施し、原因菌が確定した24時間後にグラム陽性菌(SAや

CNS、OS、アクチ等)は治療し、グラム陰性菌(大腸菌、クレブシエラ等)や原因菌検出無しは治療を行わなかった。試験群ではグラム陽性菌が40%、グラム陰性菌又は原因菌検出無しが60%であった。コントロール群は乳汁サンプル採取後に抗菌薬軟膏で治療を開始し、その後培養により原因菌の特定を行った。つまり、コントロール群は原因菌不明の状態ですべての乳房炎が治療されたことになる。

症状の回復が悪く2回目の治療を受けた乳房炎牛はコントロール群では試験群に比べ2倍以上であった。特にグラム陰性菌性乳房炎では、コントロール群では症状が好転せずと判断されて2回目の治療を受けた牛が55%に対して試験群では半分以下の25%であった。また、乳房炎を廃棄した日数はコントロール群に比べて試験群の方がやや少なかった。さらに、前泌乳期を通じての長期的な影響の調査では、臨床型乳房炎の再発率、体細胞リニアスコア、乳房炎治療後の泌乳量、淘汰率は試験群とコントロール群で差は認められなかった。

最後に

乳房炎スコアリングにおいて、全身症状が出ていないスコア1又は2の乳房炎は菌種が確定してから治療を開始した場合の方が良い結果となりました。全身症状が出ているスコア3の乳房炎の場合は、大腸菌等のグラム陰性菌による乳房炎を考慮した治療が必要であり、全身への抗生剤や消炎剤も必要になってきます。

乳汁検査を実施することで、無駄な治療を抑えることも可能です。弊社で行っている乳汁検査において菌なしの割合は一定数あります。これは、治療判定で検査を依頼していたり、乳房炎罹患分房以外にも検査を依頼していることがあるためと思われます。スコア1の乳房炎で、かつ検査結果は菌なしの場合、乳房炎発見時に治療を開始していたら無駄な治療及び労力になってしまいます(薬代、バケット搾乳をする労力、廃棄乳等)。

このようなことを防ぐ目的で、また何かしら乳房炎で問題を抱えている場合は、まずは乳汁検査を試みてはいかがでしょうか？

富田大祐



Total Herd Management Service